

野菜の作業 雨明け後はダニなどの害虫が増加します。畑を良く観察し適期防除を行いましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント																		
・ホウレンソウ ・コマツナ ・ニンジン ・ダイコン ・カブ など	・チンゲンサイ ・キュウリ （抑制栽培） など	【スイートコーンの害虫防除と管理】 直売センターの人気者！ スイートコーンの害虫を防ぎましょう！ ●アワノメイガ ガの幼虫が俵の部分を食べます。 生育ステージに応じて薬剤散布！																		
	収穫																			
※高温と乾燥で発芽が悪くなります。播種前後の灌水、発芽までの遮光、夕方涼しくなったからの種まき、芽だししたの種まきなど工夫してみましょう！	・ホウレンソウ ・青ジソ ・スイートコーン ・ピーマン ・キュウリ ・トマト ・ユウガオ ・ジャガイモ など他多数！	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬剤名</th> <th>散布時期</th> <th>倍率等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ダイトウノ粒剤</td> <td>雄穂が出だした頃 （収穫14日前まで）</td> <td>500g / a</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アグロシヨ乳剤</td> <td>雄穂が出揃った頃 （収穫7日前まで）</td> <td>2,000倍</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トレボン乳剤</td> <td>雄穂が開花した頃 （収穫7日前まで）</td> <td>1,000倍</td> </tr> </tbody> </table>		薬剤名	散布時期	倍率等	1	ダイトウノ粒剤	雄穂が出だした頃 （収穫14日前まで）	500g / a	2	アグロシヨ乳剤	雄穂が出揃った頃 （収穫7日前まで）	2,000倍	3	トレボン乳剤	雄穂が開花した頃 （収穫7日前まで）	1,000倍	※粒剤は、葉や葉の付け根にとどまるように散布してください。	
			薬剤名	散布時期	倍率等															
		1	ダイトウノ粒剤	雄穂が出だした頃 （収穫14日前まで）	500g / a															
2	アグロシヨ乳剤	雄穂が出揃った頃 （収穫7日前まで）	2,000倍																	
3	トレボン乳剤	雄穂が開花した頃 （収穫7日前まで）	1,000倍																	
●オオタバコガ 雌穂の絹糸が出てきた頃にアファム乳剤1,000倍を散布します。		●除げつや除房はしたほうがよいか？ 根元からでた枝（分げつ）や数本着いた雌穂も光合成を行って俵の充実に貢献しているので、取らなくてもよいです！																		

果菜類の栄養状態の判断

果菜名	生育の状況	状態
キュウリ	曲がりや先の細いきゅうりが多い	樹勢が弱い
トマト	上段花房の第1, 2花の開花時に完全に開いた葉が4枚程度あり、茎の太さ直径1cm程度	樹勢適当
ナス	開花した花の先に次の花の蕾がある	樹勢適当
ピーマン	節間が短い	樹勢が弱った
ナス・ピーマン	花の雌しべが雄しべより短い（短花柱花）	樹勢が弱った

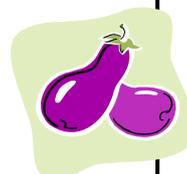
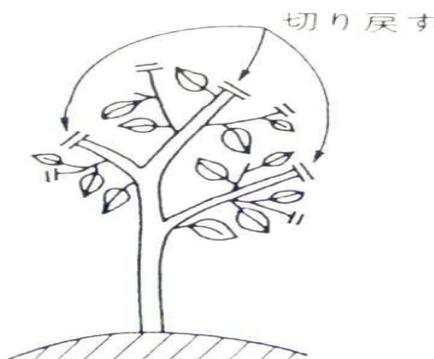
果菜類の追肥

キュウリ、ナス、ピーマンは収穫開始頃から、トマトは第1果房がピンポン玉位になったら樹勢を見ながら追肥します。1坪当たり追肥化成70g程度を10～14日間隔で施用し、乾燥している場合は追肥のあと灌水するか、液肥（400倍）に代えて施用しましょう。

ナスの更新剪定

盛夏を越すと株の勢いが衰え、果実の成りが悪くなるので、主枝を切り戻し、新芽をふかせ柔らかい秋ナスをとる準備をしましょう。各主枝は、2本程度の側枝を残して切りもどし、側枝も切りもどす。

剪定時期・・・7月下旬



【オクラの粘りで夏バテ防止！！】

オクラひとくちメモ

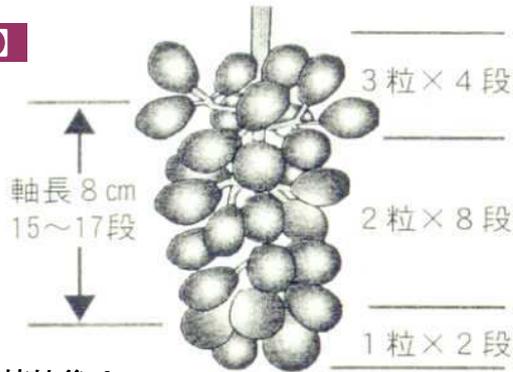


アオイ科の熱帯性植物。原産地はアフリカの東北部。エジプトでは紀元前2世紀からすでに栽培されていたといわれています。日本へは、江戸末期に渡来したとされていますが、本格的に普及し始めたのは1970年頃からです。オクラには、ヌメリがあり、このヌメリには整腸作用やコレステロールを減らす効果があるとされています。また、カルシウム、鉄、ビタミンA、ビタミンCなどが含まれ夏バテには最適の食材ですので、生食、煮物、揚げ物などで旬の味をお楽しみください。

果樹の作業

【ぶどうの摘粒】

有核の巨峰は、無核粒、小粒、障害粒、極端に大きい粒、内側に入り込んだ粒等を取り30～35粒になるようにします。スチューベンは、仕上りの房重を300gとすると75粒程度、ナイアガラは250gとすると60粒程度となるよう、混んでいて



隣の粒を潰しそうなものを中心に摘粒します。摘粒後は、

殺菌剤（オキサド水和剤）散布を行い、出来るだけ早めに袋をかけ晩腐病等の予防をします。

質問コーナー



農業豆知識

果樹の幹等に発生する主な害虫の生態や防除について教えてください。

害虫名	生態と被害状況	防除方法
・コスカシバ (プルーン、梅、アンズ、モモなど核果類を加害する。食害部分は、木くず虫糞、樹液が混じったものがつく)	一見ハチのように見えるがガの仲間。年1回発生。越冬は幼虫で寄生部の樹の皮の下で行う。成虫は日中活動し表皮の裂け目、傷口等に埋め込むように1卵ずつ産卵するが、産卵部位は地上から1m位までの所に多い。幼虫は樹の皮の部分に食入し、少し食害して越冬する。食害は翌春から盛んになる。寄生したところでさなぎになり、羽化するとき半身を樹の外に出しその場にぬけ殻を残す。寄生を受けた樹は表皮が荒立ち、さらに産卵場所として狙われ、集中的に寄生を受けひどい被害をうける。	早い時期に虫糞排出部の表皮を削り幼虫を殺す。薬剤防除は最低限年1回は行う。成虫の発生が多くなった直後の9月中、下旬に殺虫剤を散布する。この時期にできない場合は、越冬前の10月上中旬又は越冬後の発芽前に散布する。散布は目通りから下の太枝や幹を重点とし充分な量を散布する。大きな産地ではフェロモン防除も実用化している。(スカシバコン)
・ブドウスカシバ (ブドウの樹に加害。被害状況はコスカシバと似ている)	年1回発生。枝の中に幼虫で越冬する。成虫は6月に出現し、6月中旬頃に最盛期になる。新梢先端の若い蔓や葉の基部などに1卵ずつ産卵する。卵はほぼ10日でふ化する。幼虫は新梢の中に侵入して育ち、7月から8月に一旦脱出して移動し、枝の基部や太枝、幹に食入する。コスカシバと同様、被害を受けたところを放置しておくとも更に被害が広がる。	せん定の時には残す枝を曲げて被害の有無を確認し、被害枝は切除して焼却する。夏に衰弱した枝は衰弱した部分の元の近くに幼虫がいるので確認して切除する。被害部の表皮を削り幼虫を殺す。薬剤防除では成虫発生終了期の6月下旬～7月上旬に殺虫剤を散布する。
コウモリガ (果樹だけでなく多くの樹木を加害。虫孔部は、コスカシバと似た蓋がつくがヤニは出ない)	2年かけて成長する。成虫は9月中旬から10月に発生。成虫は日中の間枝や葉かげに下垂状態で静止しているが、夕暮れから活発に飛び回りながら産卵し地面に卵をまき散らす。1回の産卵量は150～300個程度で、総産卵量は2000～3000粒に及ぶとされ、卵は翌春4～5月にふ化する。幼虫は初め雑草を食べ成長し、その後はヨモギ、ギシギシ、イネ科植物、などの草の食害を経て近くの樹木に移動し食入し、ここで越冬する。	若齢幼虫は最初雑草に寄生するので、園内や樹の周りをきれいにしておくことが大切。(地際の加害が多い)被害の早期発見につとめ、食入が認められた場合、虫孔は上に向かって直線的であるので、針金を入れると大体殺せる。後で虫孔口に蓋が出来なければ死んだと考えてよい。